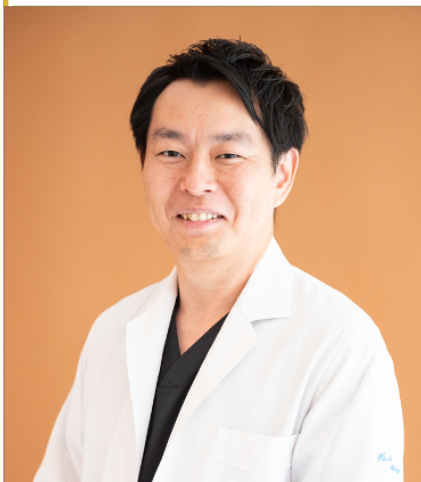




## 細胞検体を使用した肺癌診療の最前線



Lecturer:

聖マリアンナ医科大学 呼吸器内科

講師 **森川 慶**

Date: Friday, 28th April, 2023

Time: 14:30 - 15:30 / Place: Building 6 - Room201

### Biography

出身：福岡県福岡市

2007.3 防衛医科大学校卒業

2007.6 初期臨床研修（防衛医科大学校病院・自衛隊中央病院）

2009.7 陸上自衛隊西部方面衛生隊野外病院隊医官（熊本・健軍駐屯地）

熊本地域医療センター呼吸器科（登録医）

2011.8 専門研修（聖マリアンナ医科大学病院呼吸器内科・自衛隊中央病院呼吸器内科）

2013.4 聖マリアンナ医科大学社会人大学院入学

2013.8 陸上自衛隊中央即応集団・対特殊武器治療隊 診療収容班長（埼玉・朝霞駐屯地）

2016.3 同退職

2016.4- 聖マリアンナ医科大学呼吸器内科 診療助手

2017.3 聖マリアンナ医科大学大学院 学位取得

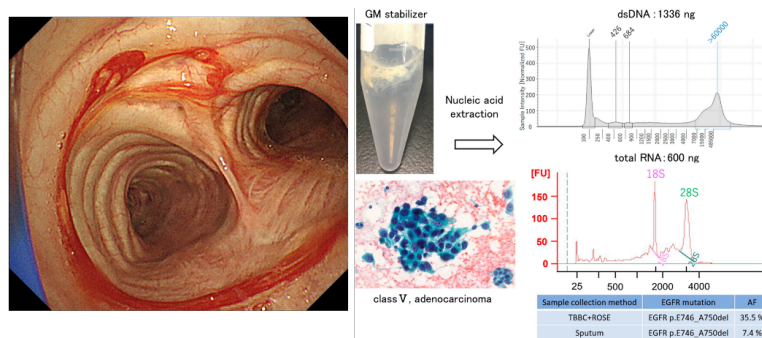
2017.4- 聖マリアンナ医科大学呼吸器内科 助教

2019.4- 聖マリアンナ医科大学呼吸器内科 講師

### Abstract

近年の腫瘍免疫学の進歩に伴い、原発性肺癌の治療に際しては、診断時の遺伝子変異の検索が必須となり、遺伝子変異陽性肺癌に対しては分子標的薬の使用が標準治療に位置付けられ、患者予後は劇的に改善した。診断時の遺伝子一括検査はNGSおよびPCR法でのパネル検査が主流であるが、原則的に十分量の組織検体が必要であることが課題であった。2020

年から取り組んだ細胞診検体活用の研究において、我々は細胞診検体でも十分な核酸収量を得られることだけでなく、組織検体との比較で核酸クオリティも高いことを示し、肺癌コンパクトパネルは、第3の肺癌CDxとして2022年10月に薬事承認され普及している。気管支鏡下に採取できる擦過検体や針洗浄液、胸水等の液性検体のみならず、気管支洗浄液や喀痰など、従来遺伝子パネル解析に使用すると想定されていない検体でも解析が成功しており、今後低侵襲かつ高精度な検査法がますます普及することが予想されている。



*Genes* 2022, 13, 812. <https://doi.org/10.3390/genes13050812>